

立教英国学院通信

第二七七号 二〇一七年十二月十二日
 発行者 立教英国学院

RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND
 GUILDFORD ROAD, RUDGWICK RH12 3BE
<http://www.rikkyo.co.uk>

夏休みと

一学期始業

初めてのホームステイ

小五 小林 直生

「ハロー！」

次は何と話そうか必死に考えながらホストファミリーと挨拶をかわしていました。今回のホームステイは私にとって初めてでした。ホームステイの手引きでいろいろ注意することなどを見ていたけれど、正直、不安でした。ホストファミリーは、にっこり笑ってあいさつを返してくれたので、私の心配事はふきとびました。ステイ先は、とても大きな家でした。マークさんとジェーンさんとデナリーという大きな犬が住んでいました。

次の日からいろいろ活動をしました。動物園やボウリング、セブンスターズにもまた行くことが出来ました。家では、パズルをしたり、フェアリーケーキやバターフライケーキを教えてもらったりしました。英語でコミュニケーションをとるために知っている言葉を使って伝えようとがんばりました。少しでも私の言ったことが伝わった時は喜びで心があたかくなりました。ステイ中に、マークさんのお誕生日会がありました。たくさんのお親せきの方が来ていました。イギリスの生活習慣を知ることができたし、本当に家族の一員になったようでした。うれしかったです。

お礼の気持ちをこめて、私は折り紙を折ってプレゼントしました。ジェーンさんが、「ありがとう。これは大事に箱の中に入れておくからね。」

と言ってくれてほっとしました。今回のホームステイでは、イギリスのいろいろな生活を体験できて楽しかったです。次回は、もっと英語でコミュニケーションをとれるようにしたいです。



生徒数が増加し、9月、East HouseとWest Houseが生徒寮として、再オープンしました。

アップル克蘭ブル

中三

小林

眞子

日本に帰国してまだ一週間も経たないある日、「アップル克蘭ブル」が無性に食べたくなった。

「アップル克蘭ブルが食べたい。」

と、母に言った。

「アップルパイはだめなの？」

と、聞かれた。

「うーん、ちょっと違うんだよね。」

曜日を見て、はっとした。木曜日だったからだ。そして思わず笑ってしまった。四月に立教英国に入學してまだ三ヶ月しか経っていないのに、木曜日のデザート習慣はすっかりと体に染み付いていた。

家の近くでアップル克蘭ブルが食べられるお店を探してみたが、私は立教英国のそれを食べたかった。いろいろ調べていると、思ったよりも簡単に作れそうなので、母と一緒に作ってみることにした。オーブンから焼けたリングの甘い香りが広がってくると、学校のニューホールの風景が思い浮かび懐かしくなった。

自家製のアップル克蘭ブルはとてもおいしく出来たが、微妙な違いも感じた。そしてみんながいない寂しさが一気にこみ上げてきた。毎日共に過ごした一学期、寮生活に慣れず戸惑うことやつらいこともあったけれど、周りに助けられ教えてもらいながら、いつしか学校生活を楽しめることができるようになっていた。つい思い出し笑いをしてしまうような事件やアウティングなどかけがえのない思い出がたくさんできた。立教英国での生活は朝から寝るまでやることに盛りだくさんだ。忙しいけれど、毎日

がとても充実している。

夏休みが始まったばかりなのにもうイギリスが恋しいなんて、学校と学校のみんなのおかげだと思う。心から感謝して二学期からも頑張りたい。そして、木曜日が楽し

目次

ページ	ページ
夏休みと二学期始業	1
OPEN DAY	6~7
2017 年度第 2 学期 行事	2
Cambridge UK-JAPAN Young Scientist Workshop	8
アウティング	3
UCL-JAPAN Youth Challenge 2017	9
英国の季節と行事	4
創立 45 周年 写真で見る立教英国学院のあゆみ 中編	10~11
EC CREDIT HOUSE	5
第 5 回 チャブレンより	12

2017 年度第 2 学期 行事

September

10 日 2 学期始業礼拝

22 日 個人写真撮影



23 日 バドミントン部 Sussex Championships 戦

24 日 第 37 回因数分解コンクール

26 日 全校写真撮影

26 日 在英国日本国大使館鶴岡特命全権大使
来校、講演

27 日 サッカー部 Hurtwood 戦



October

4 日 アウティング



5 日 男子バスケットボール部 Lancing College 戦

7 日 英語検定一次試験(準一級以上)

8 日 英語検定一次試験(二級以下)



11 日 テニス部 Kings Edward 戦



12 日 男子バスケットボール部 Worth School 戦

13~21 日 オープンディ準備

22 日 2017 年度オープンディ

29 日 軽音楽部コンサート

November



1 日 男子テニス部 St. Peters 戦、女子テニス部 King Edward 戦

4 日 生徒会主催 Guildford ショッピング

5 日 英語検定二次試験



7 日 男子バスケットボール部 Bede's 戦



8 日 テニス部 Vidal School 戦



8 日 バレーボール部 Epsom College 戦

9 日 男子バスケットボール部
Ardingly 戦

14 日 バレーボール部 Epsom College 戦



15 日 バレーボール部 Michael Hall 戦

15 日 男子バスケットボール部
Michael Hall 戦

22~27 日 期末考査

28~29 日 期末テスト返却

30 日 クリスマスコンサート&H3 お別れ会



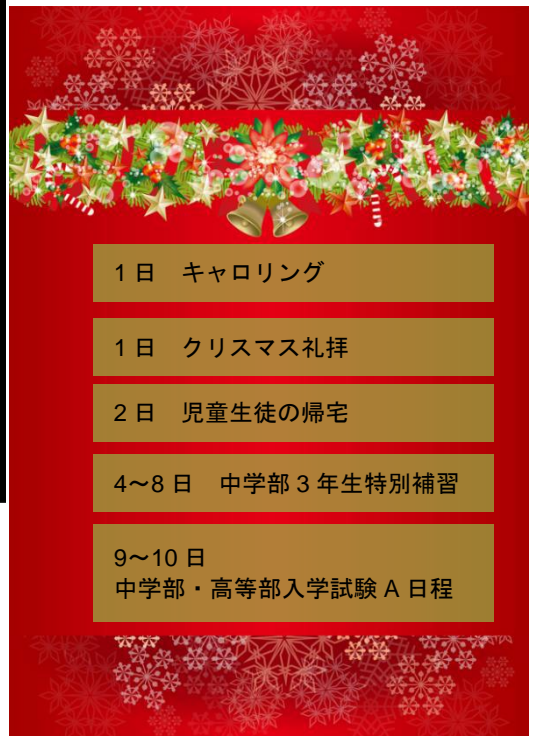
December

1 日 キャロリング

1 日 クリスマス礼拝

2 日 児童生徒の帰宅

4~8 日 中学部 3 年生特別補習

9~10 日
中学部・高等部入学試験 A 日程

アウトディング

オックスフォードで一日を

高二一

松永

朋子



窓の外の景色を眺めていた。古いけれどどこことなく威厳のある街並み。いや、古いからこそ、か。
これがあのテレビの画面越しでしか見たことのなかったオックスフォード。

「年前フィリピンのソファでゴロゴロしていた私には考えられないところまで来てしまったな、と改めてイギリスに住んでいることに実感がわいた。」

ゆったりとした雰囲気をもつケンブリッジとは対照的に、大学と住居とお店がごちゃまぜになって、ぎゅうぎゅうに詰まっている感

H2 Oxford

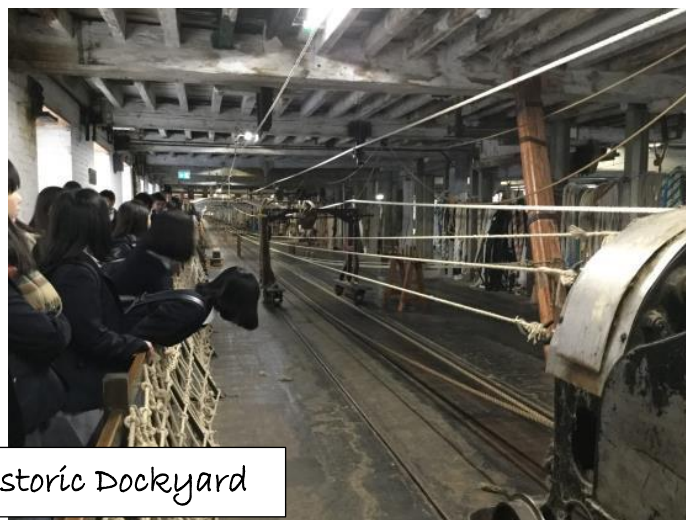


じ。それでいてしっかりと調和がとれている。じっくりと街を観察した後は、イギリス最古のコーヒーショップへと足を運んだ。めったにない機会だし、と少し背伸びをしてモカと蜂蜜バナナアイスクリームイチゴ添えをオーダーした。無論、どちらも絶品だった。

しかし今回のアウトディングのハイライトは、やはり若い男性ガイドさんによるハリーポッターツアーであろう。実際映画に使われたロケ地や、モデルとなったオックスフォードのダイニングホールをこの目で見る事ができた。特にダイニングホールは圧巻だった。ちょうど夕食の準備が行われていて、一直線にきれいにキャンドルが並べられていたのがとても印象的だった。今でもその幻想的な光景が目に残っていて離れない。

オックスフォードで見るものが全てが新鮮だった。また機会があればぜひこの歴史ある街を訪れたい。

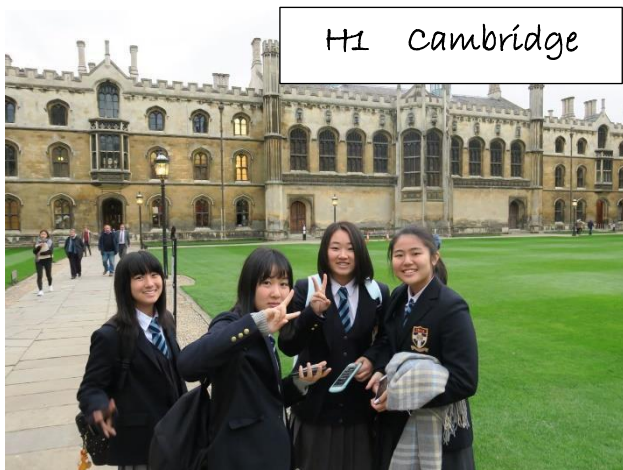
P5G6 Stonehenge



M1-M3 Leeds Castle & Chatham Historic Dockyard

H3 London

H1 Cambridge



英国の季節と行事

Guy Fawkes Bonfire

11月5日、イギリスでは^{ガイ・フォークス}Guy Fawkes Day を迎えます。ガイ・フォークスとは、今から約500年前に国会議事堂の地下で爆破未遂の犯人として逮捕された人物。当時、イギリス国内では、プロテスタントの国王がカトリックの人々を弾圧して深刻な宗教対立の状態にあり、この事件を一概に評価できない複雑な事情がありましたが、国会議事堂爆破という大事件が未遂におわったことを記念して、この日は焚き火をたいてお祭りをするようになりました。一般に、11月第一週の日曜日に行われます。



今年は小中学生の一部が、近くのお祭りに外出しました。村はずれで大人は松明を持って、子供は光るおもちゃの棒を掲げて、伝統にしたがって行列を組んで焚き火場へ。松明の灯をともし、焚き火が燃え上がる様は壮観。野山が枯れ草色に染まった初冬の頃ですから、息が白く、焚き火のあたたかさが体に沁みとおる夜でした。



Christmas Shoebox Appeal



学校で Christmas Shoebox Appeal への参加が始まったのは、2015年のこと。小学生の合同社会の授業で、地域の社会活動の一つとして取り組みました。Christmas Shoebox Appeal は、世界中がクリスマスをお祝いし、幸せなひとときを過ごす一日に、貧しい人々へ贈り物をおくって、彼らにも心が温まる日を過ごしてもらおうというボランティア活動です。地元 Cranleigh の団体の取り組みでは、ルーマニアの Hunedara に住む貧しい人々へ毎年送っています。Samaritan Purse などのキリスト教団体が大きく取り組んでいます。

小6以来毎年取り組んできた中2は今年もプレゼントボックスを作りました。昨年・今年と、小学生たちもそれぞれにプレゼントを作っています。

写真などから贈る相手の生活の様子を想像し、どんなものを送るといいか、頭を絞って考えます。男の子に贈るのか、女の子に贈るのか、何歳ぐらいの子供へかも考えます。自分たちの生活を振り返りながら、異なる環境の人のことをおしはかり、心をこめて品物を選びます。予算は10~14ポンド。限られた予算の中で、できるだけ品数を多く、上手に品物を選ぶのも勉強です。靴の空き箱を活用して、タグや値札を外してきれいに品を詰め、クリスマスカードも同封して、包装紙で包んだら出来上がり。「いいな、こんなプレゼント、自分もほしい」…毎年誰かが言います。受け取る子供たちが笑顔のクリスマスをすごせますように。Happy Christmas!



Brighton House



Vice(M3)

Captain(H3)



Captain(H3)

Vice(H3)

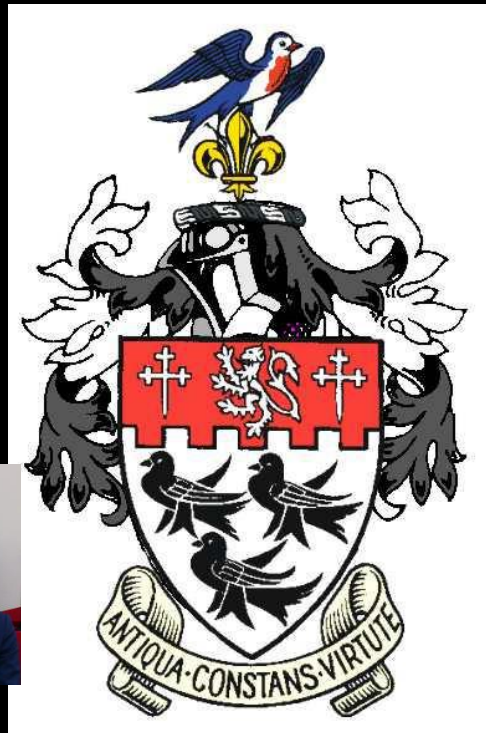
Starting in September 2017, the English Communication department introduced a House system for all students. The inspiration for our Houses came from the Harry Potter books, and, just as in these stories, we have 4 Houses each with its own colour and animal. Our Houses are named after important English towns in Sussex: Brighton, Arundel, Guildford and Chichester. Each student in the school has been allocated to a House; this took place in a special ceremony and, although we do not have a Sorting Hat, we do have a Sorting Chair which the students sat on while the name of their House magically appeared on a screen behind them! Students can win points for their House by ↗

EC CREDIT HOUSE

↗ achieving certain marks in their homework, exams and spelling tests. It is important to say that points are also given for effort, as the EC teachers recognise that sometimes students try very hard, but don't always get high grades. Losing points is also a possibility, for example being late to class or not handing in homework will mean points are taken away from a House.

Our first winner of the House Point system was Brighton House. As their reward, they received a special lunch in one of the classrooms, which had been turned into a Christmas Grotto especially for the occasion. The top 3 point winners also received prizes.

Arundel House



Vice (M2)

Captain(H3)



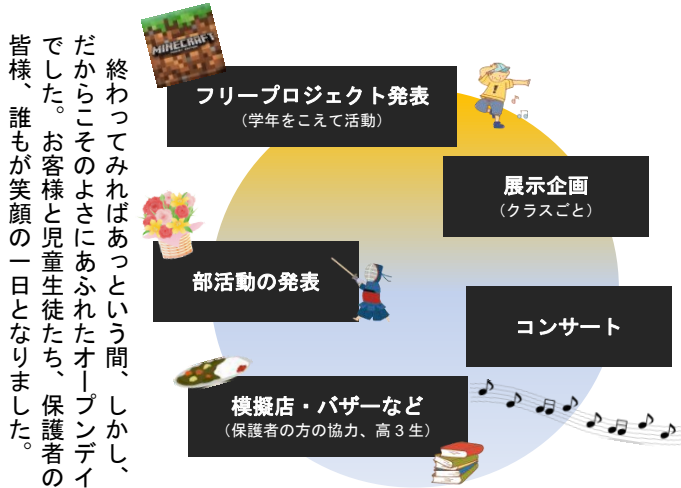
Vice(M2)

Captain(H2)



Guildford House

Chichester House



終わってみたいばあつという間、しかし、だからこそのよさにあふれたオープンデーでした。お客様と児童生徒たち、保護者の皆様、誰もが笑顔の一日となりました。

十月二十二日(日)、年に一度のオープンデーが行われました。

オープンデーとは、文字通り、学校を開く一日という意味です。そもそものはイギリスの学校での催しで、入学を考えている方のために、学校を一日公開し、授業、活動、児童生徒の様子を見てもらうことを目的とするものです。

立教英国学院では、十時から十六時まで学校を開放し、日本の学校行事を取り入れた『文化祭』として行っており、「展示や発表だけでなく、立教生の姿を見てもらうことが大切」と児童生徒に教えています。毎年、地元の皆さんを含む多くのお客様が訪れ、立教英国学院や日本のことを知ってもらう重要な機会となっています。

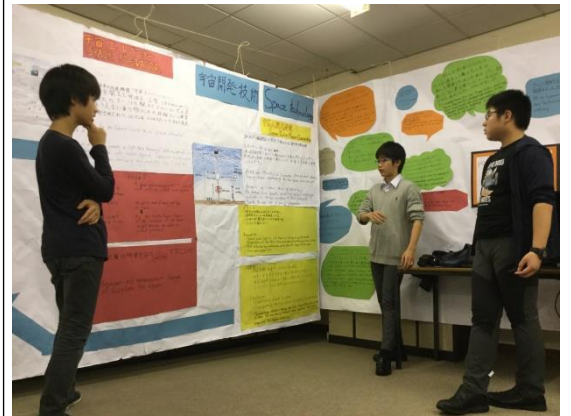
今年のオープンデーでは、「Stimulate Your Imagination」のスローガンに沿って各クラスの展示企画が行われました。

クラス企画

オープンデーのメインの催しとなるのは各クラスの企画です。展示企画が主ですが、教室全体を使ってクイズに取り組んだり、実験を繰り返して電気や機械で動くものを作るのが主となる催しも過去にありました。今年は一般的な展示でしたが、小学生では体験ができた、中学生では生徒工夫の電車の改札や当日の英語発表もあり、工夫がこらされていました。どのクラスも特徴ある展示に仕上がりと、地元のイギリスの方々に、とても面白かったよ、と褒められている姿も見られました。

〈今年のクラス企画〉

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 小学生「ハリーポッターと忍者」 | 高校1年生「日本の昔話」「ジブリ」 |
| 中学1年生「電車」 | 高校2年生「刑務所」「日本の高校生」 |
| 中学2年生「未来技術」 | |
| 中学3年生「マリオ」 | |



DAY

Sunday, 22.10.2017



フリープロジェクト企画

フリープロジェクト企画は、クラス企画に対し、学年の枠をこえて、テーマに興味を感じて児童生徒たちが集まり、ひとつの企画を仕上げる試みです。部活動の発表もこの中で行われます。

- | | |
|---------------------|----------|
| 茶道・剣道部による発表 | 演劇部による劇 |
| フラワーアレンジメント部による小物販売 | |
| ダンスを中心とするパフォーマンス | |
| ルービックキューブ | 路上ライブ |
| マイクラフトの実演・展示 | チャリティー企画 |

昨年より新しい企画が増え、中学生が中心となって立ち上げた企画もあります。当日は見て頂くだけでなく、お客様を巻き込んだ実演など、楽しみが盛りだくさんでした。

模擬店・バザーなど

子供たちにとっての楽しみは模擬店です。英国の寮生活では珍しい食べものや催しを楽しめる日。そして英国の方々に、日本文化を楽しんで頂けます。

模擬店では食事として、カレーライスやケーキ、焼き鳥などが出店されています。チーズケーキは高3生が作り、毎年人気を呼んでいます。保護者・企業の方などの協力とで菓子、菓子パンの販売があるほか、古本販売、バザー、くじびきといった楽しみもあります。

これらの当日販売は、高3生と当日オープンデーに来て下さる保護者の方々の協力によって成り立っています。受験生としての一年を過ごす高3にとっては、ほっと一息をつく特別な一日ともなります。





オープンデイ

中二 櫻澤 陶悟

僕は入学してから二回目のオープンデイを経験した。今年の中学二年のテーマは「常識をかえるテクノロジー」だった。僕は正直、今年の中学二年のテーマには反対だったが、作業をしているうちに楽しくなっていた。中二は、A、B、Cの班に分かれて、僕はC班だった。C班は、未来技術を紹介する班だった。僕たちは部屋の中にドアを作る予定だった。他の二人と一緒に必死に作った。四日かけて作ったドアはとても美しく見えた。文章を作ることはとても大変だった。その後も書いた画用紙をはりつける作業は大変だった。

オープンデイ当日、僕はドキドキしていた。自分達のプレゼンテー

ションがあったので、僕はそのことによって少し緊張していた。来る人はみな「すばらしい」と言ってくれた。とてもうれしかった。そして午後二時にプレゼンテーションが始まった。僕は「セグウェイ」について、英語と日本語でくわしく説明した。

お客さんの前で上手に説明しきった時は、とても気持ち良かった。練習しておいて良かったなと実感した。また僕はフリープロジェクトにも入っていて、EDM企画だった。EDMとは、エレクトリックダンスミュージックの略だ。僕はEDMが元から好きだったので、ターンテーブルを扱うのが楽しかった。あまりうまく演奏できなかったが、楽しむことができた。フリープロジェクトは本当に楽しめる良い企画だなと思った。

クラス企画の「常識をかえるテクノロジー」を見終わった先輩達は、「文字が多くて分かりやすかった。」「内容が深く面白かった。」と言ってくれた。僕は模型があった方が絶対に面白いと思っていたが、模型はなくても内容をどれだけ詳しく、面白く分かりやすく伝えられるかによるのかもしれないな、などと思った。

夜に後夜祭が始まった。とても盛り上がりがあった。ダンスを見ている時、すごくカッコいいなと思う、自分もダンスを練習したくなってきた。僕は毎回オープンデイで後夜祭を楽しむにしているの、始まる前はとてもドキドキしていた。映画などよりも迫力があるからだ。この日のために必死で練習してきた先輩方のダンスは素晴らしかった。

来年も今年のような楽しいオープンデイにしたいと思っている。

OPEN

オープンデイを終えて

高一―二 村山 みせり

オープンデイを終えてまず思ったことは「やつと終わった、意外とアリかも」でした。

オープンデイは揉めると元メンや先輩から散々聞かされた大きな不安と進まない気持ちで始まった準備期間。初日からあまり上手いかず、「ああこれは確実に面倒くさいことになるぞ」と思っていました。一日中朝から晩まで毎日、塗って塗って塗りまくるという日本の学校の文化祭の準備ではなかなかない状況で、何も起きないはずはないかと考えていました。

しかしそこまで大事にならずに無事済んで、ある意味拍子抜けしました。さすがに和気藹々という訳にはいかずビリビリとした空気ではありましたが、「無事」に終えることが出来たのはそれぞれの人の我慢や折り合いや引き際の見極めがあったからこそだと思います。

今回、私は色々な人に気を遣わせてしまったなと反省しています。自分の気分の具合で周囲の人を振り回してしまいました。まだまだと、本当にまだまだなのだと痛感しました。自分も辛くて大変な事を沢山抱えているはずなのに、周囲を気遣い励ましの言葉をかける同年代の人を見て、本当に素敵だなと思いました。見習わなければとも思いました。どうしたらあんな人になれるのか今の私では到底追いつけないと思いますが、出来るように成長したいです。

また自分の英語力の無さも痛感さ

せられました。私はフリープロジェクトに入っていた訳ではないのですが、チャリティー企画のお手伝いをさせてもらいました。教室棟の入り口で様々な物を売っていたのですが、場所のせいか多くの人から色々な質問を受けました。かろうじて質問の内容を理解することは出来るのですが、それに対して英語できちんと答えることがほとんど出来ませんでした。せっかくイギリスにある学校にいるのに、このままでは話せるようにならないまま卒業することになりそうで、焦りを覚えています。

自分の新たな課題を発見したオープンデイですが、何だかんだ楽しかったです。一週間ずつとストレスがかかり続けて肌あれももの凄かったのですが、いい経験になりました。普段一緒に授業を受けている人達と、皆で一つの物を作り上げるというのは学生時代にしか出来ない事だと思います。紆余曲折ありながらも総合2位をとることが出来て2組のパワーはやはりすごいなあと感じました。きつと来年は1位をとれると思います。オープンデイは年に1回だからよいのだと、あと1回しかないからこそよいのだと思います。頻繁に何度もあつてほしいはないと正直思います。でも「それなり楽しかったでしょ？」と不思議に思っている方が出来ます。来年はどうなるのか、楽しみであり不安です。



夏休みに入ってからすぐの七月十二日、日本より東北地方の高校生（宮城県立古川黎明高校・福島県立磐城高校・福島県立福島高校）と立教池袋高校からの生徒たちを迎えて、2017 Cambridge UK-Japan Young Scientist Workshop がスタートしました。

七月十二日から十六日まででは立教英学院をホスト校として、セブンスターズ、ギルフォード、ロンドンなどに観光に出かけました。セブンスターズでは地層について学び、海辺でピクニックをしました。ロンドンではロイヤルソサエティ（王立協会）や植物や生物の分類をしたカール・フォン・リンネのリンネ学会を訪問しました。理系の生徒たちにとっては貴重な学びの機会となりました。

十六日の午後からは会場をケンブリッジに移し、イギリスの高校生と合流して Young Scientist Workshop が本格的にスタートしました。生徒たちは4つの研究グループ、2つのディスカッショングループ、もしくは Science Communication を目的としたラジオ番組を制作するグループのいずれかに分かれ、1週間の密度の高い学びの時を過ごしました。7つのグループは次の通りです。

- ① 化学部：虹の研究
- ② 遺伝子工学部：ショウジョウバエの研究
- ③ 工学部：ジェットエンジンの研究
- ④ 地球温暖化やエネルギー問題、健康について考えるディスカッショングループ
- ⑤ 放射能問題と環境について考えるディスカッショングループ
- ⑥ アースサイエンス学部：化石や岩から気候変動をたどる研究グループ
- ⑦ サイエンスをわかりやすく伝える方法を考えるラジオ制作グループ



プロジェクトチームごとの研究の合間には、日本文化（書道や歌舞伎）の紹介や、参加校それぞれによる学校紹介、イギリスの生徒たちによる交流ゲームなど、多くの時間を一緒に過ごして、とてもよいフレンドシップを得ることもできました。

ワークショップ最終日の二十一日には、1週間の研究の成果を共有する4時間に渡るプレゼンテーションが行われました。基本は英語、時折日本語も交えながらバイリンガルでの研究発表の場となりました。最初は英語でのコミュニケーション



に戸惑いのあった生徒たちも、この日は堂々と発表していました。プレゼンテーションに続いては、Cambridge College での盛大なディナーパーティーが行われました。この場で一人一人が名前を呼ばれ、ワークショップの修了証を手に入れました。

ケンブリッジという歴史ある、かつ最先端の研究を行っている大学で学べたことは、参加した生徒ひとりひとりとって本当に貴重な学びの機会であり、特別な時間だったことと思います。

今回の体験が、夢を大きく育み、世界に羽ばたく第一歩となればと思います。

Cambridge UK-JAPAN Young Scientist Workshop

12~22.07.2017



「質問をしるよ。」

高二 二 齋藤 逸成

おそらく、このケンブリッジのワークショップで一番聞かされた言葉だろう。僕は普段、人の話を聞き、質問をするタイプではない。きつとどこかで、いや意識して「誰かがやってくれる。」と、人まかせにしていただろう。もちろん今回もそのつもりだった。

だが、そんな簡単に事は進まなかった。最初にホールに集まったときに、主催者や関係者などの人のお話があった。その後には、お話の長さぐらいの質問の時間が設けられた。あけくらの果てには、「日本人が質問するまで終わらない。」と、言い出した。その時は、違う人が質問をしてくれた。しかし、僕も流石に「いつか僕に回ってくるので、次は質問を考えておこう。」と、感じていた。それは、思っていた以上に難しいものだった。普段、そういった事をやらない僕に対して、随分の難問だった。質問をするか、しないかは関係なく一つ質問を作る。これを繰り返した。それから、何回か名指し

で与えられる機会や、自分から手を挙げることもあった。正直、そういった毎日ですトレスを感じていた。しかし、悪いことだけではなかった。質問を考えながら話を聞く事によって、より内容を理解しようとするため、以前よりも人の話が興味深いと感じるようになった。そして、なにより英国人がたくさんいる中で自分が口にした英語が皆に理解されることでさらなる自信や嬉しさが込み上げてきた。

今まで、「質問」とはただわからない事をスピーカーに聞くだけの事かと思っていた。しかしこのワークショップに参加して、それは自分がスピーカーに「私は、あなたの話を聞いていますよ。」という、意思表示をしている事と同じだ、と、感じた。それと同時に、今まで自分が質問されることが嫌だったのが質問されるという事は、僕が伝えたい事に相手と興味を示してくれている、という事である。そう考えると、その人のためにも質問の答えがわからなくても「わからないです。」ではなく、自分の予想だけでも答えるべきだと感じた。



今年も「U」をメイン会場とした日英高校生のためのサマープログラムが開催されました。このプログラムは、今から約百五十年前のペリー来航のち、長州藩と薩摩藩から英国へひそかにわたった人々が、University College London (UCL) で学び、近代日本の礎を築く人材として活躍したことを発端としています。四年前の二〇一三年、ペリーの来航と日本の開国から百五十周年にあたり、彼らの偉業を祝福する様々な催しが行われました。その集大成として、将来グローバルに活躍する人材を育てるため、日英の優秀な高校生を集めて、主な会場は「U」、そしてケンブリッジ大学でサマープログラムを開催しており、今年は第三回目となります。本校からは高校二年生四名が参加しました。



開催期間は毎年十日間ですが、最初の二、三日はIcebreakingと呼ばれる、様々な学校から来ている参加高校生達が互いを知り、共に過ごす距離を築けるよう、アクティビティをすることで始まりません。また街中をまわって、イギリスを学びます。滞在は大学寮を利用しており、

学生の生活の様子を少しですが体験することが出来ます。プログラムは、レクチャー、ディスカッション、発表を中心に組まれています。特にレクチャーは、UCL、ケンブリッジ大学の最先端の研究者によって行われます。その数は、一週間で、約十にも及び、宇宙学、ナノテクノロジー、医学、



経済学など内容は多岐にわたりました。特筆すべきは、ジョン・ガードン博士のレクチャーです。博士は二〇一二年にノーベル生理学・医学賞を受賞した科学者で、日本の山中伸弥教授と共同受賞しています。非常に高度なものでありながら、豊富な写真と図をもとに、高校生の知識にある発生の基礎から分かりやすく進められました。過去に業績を上げ、それが実用化されており、さらに現在も精力的に活動する研究者達から耳にする話は、実に生き生きとしていて、エネルギーにあふれています。何よりも、偉大な研究を成し遂げたゆえの凄さが際立つ以上に、私達と同じ勉強に悩む高校生だった人物

UCL-JAPAN Youth Challenge 2017

21~30.07.2017



が、前に進む努力を続け、今この研究があるのだということを伝えてもらえたことが幸せでした。レクチャーを通じて様々な世界の扉を具体的に提示されるとともに、これから進んでゆく大きなパワーをもらったような気持ちになりました。プログラムのメインは、Grand Challengeと呼ばれる講義・ディスカッション・発表・シンポジウムへの参加と発表がセットになっている取り組みです。今年のテーマは『Entrepreneurship (起業)』。社会事業についての講義を受け、UCLで学ぶ日本人学生の実際の取り組みも提示されました。社会問題を提起し、話し合い、それを大衆の一人としてどのように社会のために取り組んでいくかの視点で、ディスカッションが繰り返されました。実際に、どのような会社を興すかも話し合います。もちろんすべて英語です。といっても、すべてなめらかに進むわけではありません。フアシリテイターの大学院生らの助けを得て、理解しにくいものを知ろうとする努力、英語でうまく表現したり伝えたりできないもどか

しさを乗り越えて行われています。ここでもまとめた成果は、二日後に公開シンポジウムで発表の機会が与えられました。シンポジウムにはレセプション(パーティー)も含まれていて、プログラムを通じて、公的な場での振る舞い方、社交、そして様々な人と知り合う場も体験できます。実際に名刺を交換し(参加学生は持っていないので貰うだけです)、この人脈が生きてくる可能性もある体験です。学生たちが得たものは何でしょう。最先端の研究? 英語力の向上? 海外経験? いや、やろうと思えばなんだってできます。英語を通じて考えたり表現したりすることも、海外の人々と友達になることも。実は、彼らが得た実感は、こんなシンプルなものなのかもしれません。それが彼らにとって、これから多くの扉を開く鍵になることでしょう。



創立四十五周年

写真で見る

二〇一七年の今年、立教英国学院は、創立四十五周年を迎えました。一九七二年に海外の日本人学校として開校した本校は、たくさんの方々に支えられて今日の日を迎えています。十一月十一日には創立四十五周年を祝う、記念コンサートを行いました。

四十五年の間に少しずつ変化が訪れましたが、今も変わらないものもあります。ここでは、全三回にわたって、二〇〇六年に当時の中学部一年生がオープンデイで行った展示企画の資料を基にしながら、立教英国学院の四十五年間を写真で振り返ってみようと思います。

前編では邸宅時代の本館や、創立時の様子を掲載しました。中編の今回は一九八〇～九〇年頃の様子を振り返ります。

立教英国学院のあゆみ

中編

※全三編の予定です



まだ体育館がなかったころ。



1980年代中頃の立教英国学院。



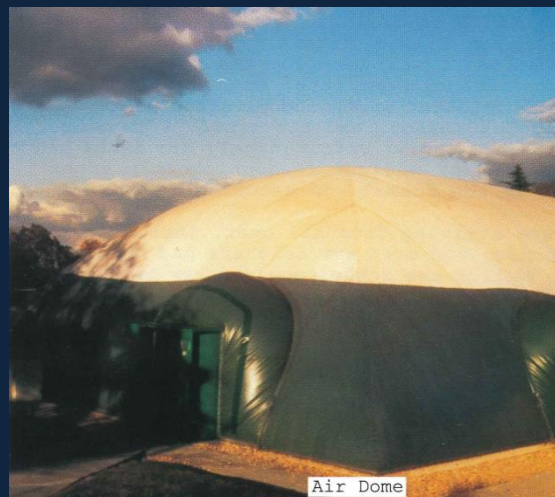
新館の3階にあったチャペル。この後、完成した教室棟に、新しいチャペル（のち31番教室、現在は剣道場）として移りました。



1986年、オープンデイで高等部1年生が製作した、学校のジオラマです。素晴らしい完成度！



1980年代後半ごろ。手前のプレハブ棟はこの頃は教員室です。



1986年、スポーツをするために作られたエアドーム。



建設中の体育館。新教室棟と共に1993年落成。



1987年、食堂の傍に更に2つのプレハブ校舎が増設されました。1992年の写真で、1986年完成の教室棟に隣接する新教室棟を建設していた頃です。

1日のスケジュール

7:00	起床 (以下制服)
7:40	テニスコート集合
7:50	体操
8:00	朝食
8:30	礼拝
9:00	授業開始(45分間・二時間授業)
10:35	TEA TIME
10:50	授業(45分間・二時間授業)
12:25	昼食
12:30	昼食
1:30	午後の授業開始(45分間・二時間授業)
3:05	TEA TIME
3:20	七時限目授業開始
4:05	七時限目終了 (以下自由服)
4:30	八時限目授業
5:30	夕食
6:00	夕食
7:00	九時限目授業 (小学生は日記・自習)
8:00	TEA TIME
8:30	自習
9:15	小学生就寝準備
9:30	小学生就寝
9:45	中学生就寝準備
10:00	就寝
以後、中3・高1・自習(12:00まで)	

1976年

●学院の一日

1987年

(月曜日～金曜日)

7:00	起床 (以下制服)
7:30	テニスコート集合・体操
7:50	朝食
8:25	礼拝
9:00	午前授業開始
10:40	TEA BREAK
10:55	授業
12:35	午前授業終了
12:40	昼食
1:30	午後授業開始
3:10	TEA BREAK
3:25	授業
5:05	自由時間 (以後自由服)
6:00	夕食
7:00	9時限目授業
(小学生は日記・自習)	
8:00	TEA BREAK
8:30	自習
9:15	小学生就寝準備
9:30	小学生就寝
9:45	中学生就寝準備
10:00	中学生就寝
以後 中3・高校生は自習	

学校の1日を今昔比較！

現在の1日のスケジュール

2017年

7:00	起床 (以下制服)
7:20	中庭集合、体操、朝食
8:10	礼拝
8:45	授業開始 (50分間・二時間授業)
10:35	TEA BREAK
10:50	授業開始 (50分間・二時間授業)
12:50	昼食
13:55	午後の授業 (50分間・二時間授業)
15:45	午後の授業終了 (以後自由服)
放課後、TEA BREAK	
18:00	夕食
19:00	ホームルーム
19:30	自習時間
高校生の一部は授業	
20:20	TEA BREAK
20:40	自習時間
21:30	小学生就寝
22:00	中学生就寝
23:00	中3、高1～2就寝
24:00	高3就寝

※週に何度か希望制で就寝延長し自習できる。

チャブレンより

第5回



立寄やざさ
チャブレンは立寄やざさ
の学校です。礼拝は
毎週日曜日の朝8時から
行われます。お話を
聞きたい方は、
チャブレンの学校
に直接お問い合わせ
ください。

主イエス・キリストの御降誕、クリスマス、おめでとうございませう。

しかし何故、クリスマスにはおめでとうと言うのでしょうか。

確かに私達は誰かの誕生日を祝います。あの小さかった子が成長した時。人生の半ばに差し掛かる年齢になった、その労苦を思う時。人生の黄昏に立つその人の存在が尊く感じる時。だから、おめでとう、なのです。

その意味で誕生日は、その人の今まで歩んだ人生に対して「おめでとう」というものです。そこには、その人生に関われたこと、その生涯から何か伝えてもらったことに對する「ありがとう」という感謝の意味が込められているのです。

その人に感謝を伝える背景には、その人との関わりの中で自分がしてしまった過ち、悔いが残ること、「ごめんなさい」という思いがあることでしょう。このように、誕生日の「おめでとう」には「ありがとう」と「ごめんなさい」が隠されているのです。キリスト教風に言い換えますならば、感謝と悔い改めが秘められているのです。

また、私達はもう一つの誕生日おめでとうの意味を知っています。赤ちゃんが無事産まれ、その命を祝う時です。赤ちゃんを待ち望む人々は、その子と幸せに過ごしたいと思うことでしょう。きっと人間と人間ですから、喧嘩をしたり、誤解をしたり、傷つけ合ったりすることでしょう。ですから誕生日への「おめでとう」とは、これからも「ありがとう」

と「ごめんなさい」を繰り返すことでしょうか、あなたのことを愛し続けたい、という思いの現われなのです。それは自分が愛されたことがあるから、今度は愛する側に立ちたい、という表明でもあります。

このように、誕生日おめでとうの意味はわかりました。では、主イエスの誕生と私達の人生、それはいったいどんな関わりがあるのでしょうか。



本館玄関に飾られたクリスマス・リース

ここで一つ目を留めたいことがあります。普通人間は「死んだ人間の誕生日は祝わない」ということです。「生誕150周年」という行事はあるでしょうが、その人に対しての感謝と賛美、悔い改めはありません。単に「記念する」というだけのことなのです。

一方で、教会はどうでしょうか。キリスト教的生活の中の根本には、感謝と賛美、悔い改めがあります。これは、倫理・道徳的に、誰か友達や親とかに持つものだけではありません。何よりもまず、自分やあの人の命を与えてくれた神様に対して、感謝と賛美、悔い改めを持って、日々を過ごすものです。だからこそ、あの人やこの人に対して、感謝と賛美、悔い改めが、ますます強くなるのです。

ですが人は、自分の身近な人でなければ、なかなかそのまでの思いを持つことができません。そのために主イエスはこの世にいられたのです。しかしその結果どうなったか。十字架にかけられたのです。主イエスのことを慕っていた人々は皆、裏切ったのです。弟子たちは皆、十字架の時には、怖くなってその場から逃げ去り見捨てたのです。

その時の、弟子達は、まさに「悔いが残る」状態です。何故ならば、「ごめんなさい」と言うおうとしても、それを言う相手である主イエスは死んでいるのですから。ですが、主イエスは復活されました。そして、弟子達が「ごめんなさい」と言い出せない所へ現われ、赦しの言葉をかけられたのです。その時の弟子達の、感謝と賛美、悔い改めの気持ちは、どのようなものだったのでしょうか。その後の弟子達の生涯を私達は「教会」という形で知っています。愛されたから愛したい、という思いが二千年間連続していることを、「教会」が証しているのです。

私は先ほど、普通人間は「死んだ人間の誕生日は祝わない」ということに触れました。ですからクリスマスは、神が生きておられ私達のすぐ近くにおられることの裏返しです。クリスマスは、これからお生まれになる赤ちゃん主イエスの誕生を祝う日です。人生の旅路において、感謝と賛美、悔い改めがあったことを、愛されたことを思い出すことを求められる日です。と、同時に、赤ちゃんの誕生日を待ち望むように、これから愛そうとすることを求められる日です。

どうかこれから迎えますクリスマスの日に、あなたが愛されたことを思い出し、また愛していこうと思いを強くすることが出来ますように。ありがとうございます、ごめんなさい、全てをこめて、神様と隣り人とおめでとう、と言うことが出来ますように。皆様、クリスマスおめでとうございませう。

2018年 同窓会日程についてのお知らせ

今年は3月第3日曜日18日の開催です。

同窓生の皆様、毎年3月の最終日曜日に立教大学第1食堂で行ってございました同窓会ですが、2018年は会場の都合で3月18日の開催となります。場所は立教大学第1食堂、時間は13:00~15:00の予定です。

例年より1週間早くなりますが、どうぞご予定に入れていただきたくお願い申し上げます。正式なご案内は来年1月に送らせていただきます。

立教英国学院